

施策評価調書

施策名	5-1-2	豊かな心の育成		施策を取り巻く環境変化	社会状況の変化に伴い、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化していると言われて久しいですが、道徳心や相手を思いやる心は、私たち大人が、様々な機会をつかって丁寧に育んでいかなければならないものと考えています。
		地域経営計画(後期計画) 該当ページ	P. 59		
担当部課	教育部 子どもみらい課	担当 リーダー	学校教育担当 加藤 敦史		

1. 住民意識調査結果

21年度(10月実施)		25年度(※実施予定)		26年度(※実施予定)	
満足度	-10.7% 第32位/全36項目(情緒豊かな児童生徒の育成)	満足度	第 位/全 施策	満足度	第 位/全 施策
優先度	77.0% 第3位/全36項目(情緒豊かな児童生徒の育成)	優先度	第 位/全 施策	優先度	第 位/全 施策

満足度:「満足である」、「どちらかと言えば満足である」を合計した割合から、「どちらかと言えば不満である」、「不満である」を合計した割合を差し引いたもの

優先度:「優先すべき」、「やや優先すべき」を合計した割合から、「あまり優先しなくてよい」、「優先しなくてよい」を合計した割合を差し引いたもの

2. 施策の目標

指標	基準値	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
(読書活動、道徳教育の推進)							
指標1:1か月に読む本の平均冊数:(冊)	22年度実績	計画	5.9冊	6.2冊	6.5冊	6.7冊	7.0冊
	5.6冊	実績					
指標2:学校で1日10回以上「ありがとう」と言った、言われた児童生徒の割合:(%)		計画	70.0%	75.0%	80.0%	85.0%	90.0%
	—	実績					
指標3:自分と違う意見を尊重している児童生徒の割合:(%)		計画	75.2%	76.4%	77.6%	78.8%	80.0%
	74.1%	実績					
指標4:		計画					
		実績					
指標5:		計画					
		実績					
指標に関する特記事項	<p>○「毎日10分以上の読書」を平成19年度から実施しており、継続した読書活動を推進しています。指標は国語力(読解力)を高めるため、1ヶ月に読む本の平均冊数を基準値5.6冊から7冊に目標を設定しています。</p> <p>○学校生活において、相手に対する「感謝の気持ちを持つこと」や「相手の気持ちを思いやる気持ちを持つこと」など情操教育の充実を図るために、友達にまた友達から1日10回以上「ありがとう」という言葉をかけること、さらに友達が自分と違う意見であっても否定するのではなく尊重する気持ちをもてるような指導を行っていきます。</p>						

進捗状況の区分 ↑:目標以上の成果があった →:目標どおりの成果があった ↓:目標に至らなかった △:遅延・未着手等 ×:見直し・廃止等

3. 施策に係る経費

事業費(傘下事務事業費計)の推移【単位:千円】 (※総事業費)	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
		当初	10,288	4,630		
	決算					

4. 施策傘下事務事業 ※別紙のとおり

5. 施策評価

後期計画における施策展開のビジョン		H24年度の狙い
自己評価(部)	H22 事後評価	児童生徒が様々な学校活動の体験のなかで感謝する気持ちや、相手を思いやる気持ちを自然と持てるようになるよう、「ありがとう」運度などを展開しました。
	H24 事前評価	道徳心や規範意識を醸成するため、学校教育はもちろんのこと、家庭教育や社会教育の分野も含めた総合的な施策展開と連携が不可欠です。これまでの人権教育、あいさつ運動、情緒を育むための読書活動など、引き続き継続して取り組んでいきます。
総合評価		施策傘下事務事業に係る個別指摘事項
総合評価(町長)	財源及び他施策との優先度の見合いから、施策展開を規模縮小することはやむを得ないものと評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「魅力溢れる学校経営支援事業」については、学校の自主性に委ねることではなく、教育委員会の責任で、全町的に平等に実施すべきことと考えるため、「廃止事業」とする。 ・その他の施策傘下事務事業については、全て「継続事業」とする。